



東京の会通信

No.241

2012年5月1日号
(毎月1回1日発行)

発行：公的骨髄バンクを
支援する東京の会
〒162-0065 東京都新宿区
住吉町10-8 第1菊池ビル302号
TEL：03-3354-6377
(FAX兼用)



<http://www.marrow.or.jp/tokyo/>
e-mail:marrow_tokyo@yahoo.co.jp

定価 100円

2012年度献血ルームにおける ドナーリクルート活動について

2011年度、公的骨髄バンクを支援する東京の会では、都内5箇所の献血ルームでドナー登録推進活動を計画し実施しました。各ルームで献血募集のお手伝いをしながら、普及啓発活動を行ってきました。ドナー登録推進活動は一時的なものではなく、今後も継続して実施していく必要があり、2年間の活動でノウハウも蓄積され、徐々に成果が上がってきています。今後も活動を継続して行きます。

目的

- 1.献血ルームでドナー登録普及啓発活動を実施する。
- 2.献血者募集のお手伝いを実施する。
- 3.街頭活動で骨髄バンクの普及広報を行う。

活動方針

- 前年度、効果の高かったルームを重点的に活動する。
- 若年層への普及啓発のため、秋葉原での活動を再実

施する。

- SHIBU2での活動を継続する。
- 日曜日の活動を増やす。
(昨年度、有楽町における日曜日の活動で最高記録の19名を記録したため)

2012年度活動プラン

- 回数 7回(前年度並)
- 日程(予定)
 - 4月28日(土) 有楽町献血ルーム
 - 5月12日(土) 新宿東口献血ルーム
 - 6月30日(土) アキバ献血ルーム
 - 8月11日(土) 献血ルーム池袋ぶらっと
 - 10月28日(日) 献血ルームSHIBU2(渋谷)
 - 12月9日(日) 有楽町献血ルーム
 - 3月16日(土) 新宿東口献血ルーム

東京の会総会&記念講演会のお知らせ

来る6月23日、「2012年度公的骨髄バンクを支援する東京の会総会」を開催します。2011年度の活動の総括と、2012年度の活動方針を決定する年に一度の重要な会議です。最近、活動に参加していない方も、ぜひこの機会にご出席ください。

また、総会終了後、記念講演会を開催します。今年のテーマの一つは「血液学の基礎」です。東京大学医科学研究所付属病院輸血部長の長村登紀子先生に、わたしたちが知っているようで知らない血液のあれこれを、わかりやすく教えていただきます。その他に、日赤血液センターの関係者の方を講師にお招きして、献血された血液の取り扱いについてお話していただくよう依頼中です。

総会・記念講演会とも、どなたでも参加できます(参加費無料)。また記念講演会の後は懇親会(会費制)を開催します。皆様、お知り合いにお声をかけていただき、ふるってご参加ください。

日時 2012年6月23日(土) 13:00開会
13:00~14:00 東京の会総会
14:00~16:30 記念講演会
17:00~ 懇親会

会場 全労済東京会館3階会議室
(東京都新宿区西新宿7-20-8)

* 懇親会の会場・会費は未定です。

命と家族、絆の物語

4月6日に文京シビックホールで、映画『うまれる』の上映会が行なわれました。全国協議会が共催として関わり、映画の後のトークショーには前会長の大谷貴子さんが出演して、お話しをされました。映画『うまれる』は少子化が言われている現在、考えさせられる作品だと思いました。

このドキュメンタリー映画には、四組の夫婦が登場します。夫と妻が二人とも親からの虐待を受けていたため、出産をためらいつつも話し合いを続けて、生まれてくる我が子への愛情を深め、家族になってゆく夫婦。出産予定日に、待ち望んでいた子が死産となり、悲しみに沈みながら立ち直ろうと努力をする夫婦。妊娠中に胎児が重い障害を持ち、完治はせず、出産しても命が長くないことを知らされても、与えられた命を喜びの中で育てている夫婦。そして出産を望み、何度も不妊治療を続け、結局、妊娠できないことを受け入れた夫婦。

これらの物語を知って、私たちが今、生きていることを感謝せずにはいられない気持ちになりました。トークショーでは大谷貴子さんの他に、衆議院議員の野田聖子さんから、ご自身の壮絶な出産経験を語っていただきました。ご長男は1歳3ヶ月になり、今も病氣と闘い入院中ですが、野田さんが我が子へ強い愛情を持って、日々暮らしておられることがよくわかりました。監督の豪田トモさんや、ドナー経験者の古賀まみさんのお話しも聞けて、夜の9時半が過ぎても、トークショーをまだまだ続けて欲しいと思ったほどです。

この『うまれる』は映画館ではなく、各地で自主的に上映会を開催して、映画を見てもらう形をとっています。地域で活動を広げ、話し合いの機会を持つことが目的です。申込みや詳細は公式ホームページをご覧ください。

<http://www.umareru.jp>

(大塚 礼子)

今年の全国大会は青森で開催

来る6月2日～3日、東京の会が加盟する「全国骨髄バンク推進連絡協議会」のボランティア大会と通常総会が、青森県青森市で開催されます。2日のボランティア大会には全国から骨髄バンクボランティアがつどい、イベントが開催されます。また、3日の総会では全国協議会の活動報告・活動方針が決定されます。会場等は以下の通りです。

2012年 全国骨髄バンクボランティアの集いin青森

○日時 2012年6月2日(土)

式典並びにトーク等 13:30～17:30

懇親会 18:00～20:00

○会場 記念式典 ホテル青森 孔雀の間(青森県青森市堤町1-1-23)

懇親会 ホテル青森 あすなろ・はまなすの間 会費 ¥6,000

2012年 通常総会&全国代表者会議

○日時 2012年6月3日(日)

2012年通常総会 9:00～11:00

全国代表者会議 11:00～14:30(途中昼休み有り)

○会場 アウガ6F男女共同参画プラザ研修室(青森県青森市新町1-3-7)

日本骨髄バンクの登録患者と検査済登録ドナー (平成24年3月末日現在)

	ドナー(全国)	ドナー(東京)	患者(全国)
登録者累計	407,871	55,267	35,359
3月登録分	3,548	292	251
3月抹消数	1,244	162	—
実質登録増	2,304	130	—

患者とドナー登録・適合状況(3月末日現在)

ドナー登録受付者数(累計)	537,859人
ドナー登録抹消者数(累計)	129,988人
有効二次検査済ドナー数	407,582人(3月2,346人増)
二次検査適合ドナー数(累計)	266,368人
実質登録患者実数(現在)	3,046人(国内1,572人)
HLA適合患者数(累計)	28,754人(患者累計数の81.3%)
非血縁移植実施数	14,051例(3月実施126例)

最後の道徳授業

栗橋西中学校第三学年教諭 武正恵子さん

大谷さんとの出会いは10年くらい前でした。私たち夫婦がドナー登録をし、その後、夫が骨髄提供者となつてからは、そのご縁が深まったと言えます。学校で行われるふれあい講演会や学校保健委員会の講師としてお願いしたこともあり、大谷さんの講演から、私自身元気を貰ったことを覚えています。生徒達が、大谷さんから元気を貰い、前向きな生き方をしてくれたらと思い、2月の道徳の授業のゲストティーチャーとしてお願いしました。道徳では、ゲストティーチャーという形で、学校外の方と一緒に授業を行うことがしばしばあるのです。

中学三年生にとって2月という月は、受験を目前に控え、不安を抱えて日々を送る月と言えます。その2月の道徳の資料は、命をテーマにしたものでした。命について考え、「生きるとは?」「自分の生き方とは?」を考える内容です。自分の進路と向き合っている時だからこそ、扱うのにふさわしい内容と言えるかもしれません。資料は「夢に立ち向かったバレー選手」と「命のタスキ」でした。

事故に遭い、片足を切断するか、または命を諦めるか、の決断をしなければならなかった主人公は、高校1年生のバレー選手でした。彼は片足を切断しても生きる道を選び、その後義足をつけてレギュラーとしてコートにたったという内容は、私自身音読しながら涙が出てきてしまいました。しかし、生徒の感想は予想していたものとは違いました。「死」に実際直面していないからなのか? 当たり前のように目が覚める生活を送っているからなのか? それとも、不安な日々を送っているからなのか? 生徒達の感想は様々で、『切断したくない』『切断して生きる』『わからない』というものでした。皆が「切断してでも生きる」と言う

思っていたのですから……。

そして、「命のタスキ」は、自分の命は受け継がれてきたもので、これからも受け継がれていくものなんだ、という内容でした。生徒

の心に残る道徳……どんな授業にしようかと考えていた時、身近にいる大谷さんに気づきました。

2月28日、大谷さんに話をしてもらった道徳の授業は、生徒にとって人生最後の道徳の授業でした。「人生最後」とは、大げさな言い方ですが、義務教育が終わる生徒達にとって、卒業後は道徳の授業がないからです。前日の27日に、テレビで放映されたアンビリバボーを見せ、授業のまとめは、大谷さんに手紙を書く、という形をとりました。手紙を届けることも話したと思います。当日は、学年の全体道徳という形で授業を行いました。勿論大谷さんが来ることは生徒に話してありませんでした。「人生最後の道徳で、大谷さんに来て貰いました!」と言った時に、一部歓声が上がったのを覚えています。サプライズで始まった大谷さんの話に、真剣な目で聞いてくれた生徒が多かったです。

大谷さんも、生徒の手紙を全部読んで、授業に臨んでくださいました。生徒達にとって、目の前にいる大谷さんの言葉は強く印象に残ったと思います。その日の学級日誌に、「1時間目は、武正先生曰く、最後の道徳だった。最後の道徳って大げさな気もしなかつたりしたりする。大谷さんの話は最後にふさわしかったと思う」と書かれていました。ゲストティーチャーという形で、話をして貰って良かったと思いました。



～学年日よりから～

大谷貴子さんの話から生きていることの幸せ、命の大切さを学びました。

「大谷さんの話を聞いて、最初はテレビに出た人が西中にくるなんて!とびっくりしました。でも話を聞いてすごく心にしみました……。Icanを聞いて、受験は絶対に合格すると心に決めました。」

「今日の道徳の授業での大谷さんの話の中で、高校受験に落ちてでも人生は終わりではないと言っていたので、少し気が楽になりました。また、1日1日ごく普通に生きていることが、普通ではないと改めて考えました。」

「今こうして、普通に学校に来て、友達と話したり、勉強したり、家でテレビを見たり……が幸せなことなんだなと思った。どんな職についても、いろいろな人のためになるんだなと思った。」

患者家族電話相談
白血病フリーダイヤル

やまい こく ふく
0120-81-5929
毎週土曜日10:00～16:00

※第2・4土曜日は血液専門
医も相談に応じます。
※医師に言えない悩み事など
もどうぞ。

お待たせしました! 『ピアノ三重奏の夕べ』復活 また素晴らしい演奏を堪能しましょう!

過去19年間連続して開催してきた「サンクト・フローリアンピアノ三重奏の夕べ」。昨年は東日本大震災の直後でもあり、コンサートホールが直接被害にあったり計画停電の実施で貸し出しが制限されていたことや、被災地の方々の復興を支援することを優先したりで、コンサート開催を断念しました。原子力発電所の事故も未だ収束がつかず放射能被害の心配は続いています。被災地の本格的な復興もまだまだ始まったばかりです。でも、何とか1年が経過し日本人の生活サイクルも少し落ち着いてきた今日この頃、こんな時こそ素晴らしい音楽に身を浸したいと思いませんか?

根強いファンの皆様、お待たせしました! 今年は秋のコンサートを復活させることが決定いたしました! ただしピアノ担当のフィリップ・ヤング氏は日程の関係で来日できないとのこと、代わりに、小澤さん・三戸さんのご友人でピアニストのティム・レーベンスク

ロフト氏が東京の会に初出演していただきます。すでに神奈川の会での円覚寺コンサートではお馴染みで、フィリップ氏同様3人で息の合った演奏を聞かせることでしょう! 会場は音響効果抜群のルーテル市ヶ谷ホールを予約しました。ぜひ今から予定を空けてお待ちいただくようお願いいたします。

開催日時: 2012年10月31日 (水)

19時開演 (18時30分開場)

開催場所: ルーテル市ヶ谷ホール

(東京都新宿区市谷砂土原町1-1)

市ヶ谷駅より

JR中央・総武線/都営新宿線 徒歩7分

メトロ有楽町線/南北線 徒歩2分

入場料: 3,000円 (全席自由)

東京の会 「5月定例会」 のお知らせ

5月19日 (土) 午後5時30分より

会場: 全労済東京・レインボー会館3階会議室

※JR新宿駅西口下車7分 (新宿区西新宿7-20-8)

※地下鉄丸の内線西新宿駅下車1番出口徒歩2分

青梅街道新宿警察署向かい北陸銀行の角入ってすぐ右側

※6月定例会予定・6月16日 (土) 午後5時30分より

定例会は 毎月第3土曜日午後5時30分 から開催しています。

新しい方大歓迎です。お気軽においで下さい。お待ちしております。

6月会報発送 「おりおり」 のお知らせ

6月2日 (土) 13時00分より

※13時までは品川運輸さんが使用されています。13時以降にお越し下さい。

場所: 品川運輸・4階会議室 (品川区東大井2-1-8)

JR大井町駅徒歩8分・京浜急行鮫洲駅徒歩2分

※今お読みになっている「東京の会通信」を約1000部折って封入して発送します。簡単な誰にでも出来る作業です。いつも人手が足りません。どうかご協力を。

※7月「おりおり」予定・7月7日 (土) 13時00分より

東京の会10周年記念出版 『もう一人の私』

患者とドナーからのメッセージを中心に、骨髄バンクの10年を東京の会通信の視点でつづる評判の一作。

本屋さんでは取り扱っていません。

あなたもお読みください。



お申し込みは

東京の会へ

売価: 1500円

送料: 300円

10冊で12,000円 (送料込)

もう一人の私

下村 美紀さん

Message from Donor

ドナー登録をして3年ほどたったある日、ポストに骨髄バンクからオレンジ色の大きな封筒が届きました。普段、定期的に送られてくるお知らせとは明らかに違い「至急開封してください」と書かれた文字に、すぐにピンとききました。

最初は不安もありましたが、わたしの骨髄を必要とする人がいるのだから、ぜひ提供したいと思いました。両親は心配し少し反対しましたが、夫と二人の姉、職場の同僚は快く協力すると言ってくれました。

提供する意志を伝えてから数日後、コーディネーターの方から連絡を受け、後日初めて病院でお会いしました。とても優しい感じの方で、ホッとしました。当日血液検査をし、先生からもいろいろ話を聞きました。私の質問に対しても一つ一つ丁寧に答えてくださり、不安はひとつずつ消えていきました。

気になるのは、自分の血液検査の数値でした。普段健康診断や献血の際、貧血を示す値が骨髄提供できる下限前後だったからです。普段の生活には全く問題はないのですが、骨髄提供となると、ドナーの健康を守るということから、基準値を必ず超えなければならないとのこと。最終の血液検査を待つ間は、まるで合格発表を聞く前にドキドキしていました。コーディネーターの方もそのことは知っていましたので、基準値ギリギリ

で通ったときは、二人で喜び合いました。

入院は5日間でした。入院中は全く不安なく過ごしました。採取後、麻酔から覚めた後、すぐ先生に採取できたか確認しました。無事予定量を採取でき、すぐに患者さんのもとへ運ばれたとのことでした。採取後の痛みはそれほどではなく、退院翌日から仕事にも復帰しました。

提供して1ヶ月半くらいたった頃、一通の手紙が届きました。私が提供した患者さん本人からのものでした。まだまだ多くの点滴はしているものの、無事「生着」したとのことでした。

その手紙の最後には、「命の恩人、ありがとうございます」と書かれていました。移植が成功し、涙が出るほど嬉しかったと同時に、“人の役にたてたんだ”という実感が湧いてきました。この手紙は一生の宝物です。

その後、ドナー登録は一年間保留となりました。一年後再登録の意思を問われ、もちろん再登録しました。現在、提供は2回までできるとのこと。また、提供する機会があれば、ぜひ、提供したいと思います。



患者さんからの手紙

初めてお便りします。

私は、ドナー様より骨髄を提供していただいたものです。

(中略)

現在、感染予防、GVHD反応等を、たくさんの点滴に繋がっていますが、希望に向かって取り組んでいます。

命の恩人ドナー様

どうぞ、いつまでも、いつまでも、お元気でいらしてください。

心より、感謝申し上げます。ありがとうございました。

かしこ

心のこもったご寄付ありがとうございました。(2012.3.16~4.15)

名川 一史さん 2,000円/磯田 春江さん 5,000円/大塚 秀博さん 50,000円

志村 励子さん 500,000円/栗本 孝雄さん 5,000円

お寄せいただいたご寄付のうち、会費未納の会員からは会費(年3,000円)を差し引いて掲載させていただきました。



▼東京の会では20周年記念行事の一環として、2010年度より日赤献血ルームでのドナー登録推進活動を続けてきました。土日に献血ルームに出向き、日赤の職員・ボランティアの方々と一緒に献血へのご協力を呼びかけ、ルーム内で骨髄バンクに興味のありそうな方へ説明をします。その場でドナー登録も可能で、2010年度は7回開催し登録者数50名という結果になりました。

▼先月号の会報で報告しましたとおり、継続して活動を続けた2011年度は、目標を100名に増やして取り組みましたが、最終的には8回115名という前年度比較倍増、目標も超過達成という良い結果につながる活動ができました。献血ルームの担当者とも意思の疎通が図られ、あるルームからは「活動日をもっと増やしてもらえないか」との要望も出るほどでした。東京の会メンバーが大きな声で呼び掛けることにより、献血者が大幅に増えることも一因となっているのでしょう。

▼そんな中、埼玉骨髄バンク推進連絡会が継続して対応している「ドナー登録推進事業」の結果が報告されました。東京の会通信2011年1月号でも紹介しましたが、埼玉連絡会は、埼玉県緊急雇用創設事業の業務

委託として献血ルームへの説明員の派遣事業を受託しました。そして6ヶ所の献血ルームに1人ずつ説明員を派遣し常駐させ、献血する方々に直接ドナー登録を呼び掛ける事業を行っています。説明員の派遣が始まってから一気にドナー登録者が倍増し、2009年度献血ルームでの年間登録者数が692人だったのに対し2010年度は4倍増の2,707名に、2011年度はさらにその倍近い5,308人になったとのことです。

▼骨髄バンクでは、2011年12月末でドナー登録者の累計が400,972人となり、40万人を突破しました。2011年度末の3月末現在では407,871人となっています。年間新規登録者数は41,763人。県別で見ると、埼玉県の登録者数は全国1位で6,101人(14.6%)です。まさにこの献血ルームでの登録推進活動が大きき力となっています。ちなみに東京都は2位の3,678人、3位沖縄県2,867人でした。2009年度に落ち込んだドナー登録も、全国各地のボランティアの地道な活動でここ3年連続増加し復傾してきました。移植数も過去最高の1,272件となり、全国で毎週平均24人の患者さんが骨髄移植を受けていることとなります。適合率も国内登録患者では95.1%です。でもまだ100%ではありません。希望を持ってない患者さんのためにも、東京の会では2012年度も日赤献血ルームでのドナー登録推進活動を続けます。ぜひ「東京の会通信」の読者の皆様も、この活動へのご協力をお願いいたします。(A)

東京ドナー登録会 予定(5月)

5/16(水) 赤羽駅東口(北区)

5/28(月) 葛飾区役所(葛飾区)

5/21(月) 中野区役所(中野区)

5/31(木) 杉並区役所(杉並区)

5/27(日) 東京キリストの教会(渋谷区)

ご寄付と会費の納入、そして絵はがきや書籍・テレホンカードの購入は郵便振替にてお願いいたします。皆様からの善意をお待ちしております。

ボランティアの運動にも資金が必要です。 東京の会に活動資金のカンパを!

郵便振替口座番号 **00100-1-555195**

他銀行から振込みの場合 ゆうちょ銀行(9900) / ○一八支店(018) 普通口座No.4180512

加入者名義 **公的骨髄バンクを支援する東京の会**